エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト

趣　意　書

私たち「エクアドルチームを新潟へ誘致する会」は、現在、青年海外協力隊事業でエクアドルにて野球の指導・普及活動を行っている齋藤勇太さん（新潟市出身）が率いるエクアドル野球チーム（12名）を新潟に招聘し、「新潟の少年野球チームとの交流試合を通じ野球の精神を学んでもらい、併せて国際交流の実を挙げたい」との願いから発足致しました。

この事業によりエクアドルの野球技術の向上とその普及の一助となることを目的とすることは勿論、新潟との交流を通じてエクアドルの子どもたちが異文化にふれ、国際的視野を身に付ける契機になるよう願っております。そのため、新潟県内の少年チームとの野球親善試合をはじめホームステイ体験、学校訪問、プロ野球独立リーグとの交流などを計画しております。

またこの事業を実施することにより、新潟の子どもたちやこの事業に関わる方々にとりましても、国際交流という貴重な学びの場になるものと考えており、その意義は多きものと期待しております。

プロジェクトの概要は以下の通りです。

1．実施期間　2014 年 8 月 20 日から 9 月 1 日（予定）
2．参加人員　エクアドル人関係者 13 名、国内関係者 100 名以上（選手、ボランティア含む,予定）
3．事業費（見込み、渡航費、滞在費等）　総額 300万円、
事業費は原則参加者等で負担すべきですが、エクアドル側の負担能力に限界があることからこの過半を協賛金で賄わなければならない状況にあります。

本プロジェクトの目的を達成出来ますよう、諸事多難の折誠に恐縮ではありますが、本趣旨にご理解・ご賛同頂き御支援を賜りたくお願い申し上げます。

平成26年1月吉日

エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト日本事務局
エクアドルチームを新潟へ誘致する会代表　　清野友二

事務局e-mail：　ecuador.yakyu@gmail.com
プロジェクト公式 ＨＰ ：　http://ecuador-yakyu.digi2.jp/
プロジェクト公式 Facebook：　https://www.facebook.com/ecuador.yakyu

御協賛戴いた皆様におかれましては、実施期間中の会場及び公式ＨＰ・公式Facebook・各種広告にて御芳名を御紹介させていただきます。

にいがた青年海外協力隊を育てる会

関係者 皆様

こんにちは。2013年1月より南米エクアドルにて野球指導をやらせていただいております、齋藤勇太と申します。先日の理事会にて、誠に勝手ながら「エクアドル野球チームの日本遠征」に関してのご協力のお願いをさせていただきました者です。企画へのご協力を前向きにご検討いただけるということで誠にありがとうございます。

エクアドルの野球選手は、日本の選手と同じくらい野球が大好きです。野球を始めて間もない選手もいれば、中には日本の選手より能力が高い選手もいます。しかし、野球の上達と共に、選手が人として成長するために、規律的な面や心の部分、集中して物事に取り組む姿勢など、学んでいかなければならないところも多く、もし機会を作れるのであれば、それを日本で学びたいと以前から思っておりました。

エクアドル人は日本人と習慣や文化が違います。

IDEAL

エクアドル人の明るさ、素直さ、度々あるわがままさ。どちらが良いではなく、エクアドル人が日本人から学ぶことと同じように、日本人がエクアドル人から学び、気づかせてもらうことも多いと思っております。

企画・協力のお願いにつきましては様々なご意見があるかと思います。多くの労力と問題解決が必要です。実現までの道のりは長いですが、ぜひ実現し、エクアドル人、日本人、関わる全ての方にとって貴重な学び合いの場になればと思っております。

企画周知や募金協力の周知などで、にいがた青年海外協力隊を育てる会の会員の皆様にご協力を賜ることが出来れば非常に心強く思います。

未熟者ではありますが、今後もよろしくお願いいたします。

平成25年11月10日

平成24年度3次隊 エクアドル野菜隊員
齋藤 勇太

IDEAL

新潟ワイド

新潟日報 朝刊 掲載

2012年10月23日(火)

野球指導で南米へ年末出発

夢に全力投球 勇気伝えたい

ネットで活動紹介

斎藤勇太さん(江南区)

エクアドルでの野球指導に向けた意気込みを語る斎藤勇太さん＝新潟市江南区の自宅

ひきこもりの若者などの支援組織で働いてきた新潟市江南区の斎藤勇太さん(28)が、12月末から国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊で、野球指導員として南米のエクアドルに派遣される。南米での自分の活動記録を、日本の若者たちへインターネットを通じて紹介する予定だ。斎藤さんは「異国で新たな仕事に挑む姿を示すことで、心を病む若者に『やればできる』という勇気を伝えたい」と張り切っている。

斎藤さんは、これまで新潟市ひきこもり相談支援センター＝同市中央区＝の支援コーディネーターや、ひきこもりや不登校の若者が通うフリースクール「夢想舎」(南魚沼市)のスタッフを務め、若者や家族らの相談にのってきた。

斎藤さんが青年海外協力隊に応募した理由の一つは、若者に「夢を持ち、挑戦することの大切さ」を身をもって伝えたいと考えたためだ。

上越教育大大学院を卒業してすぐに勤めた「夢想舎」で、「死にたい」と口にする若者に対し「夢を持とう」とよく語っていたという斎藤さん。ただ「言葉だけでは、行動する意味がきちんと伝わらないのでは」との思いが次第に膨らみ、ずっと興味のあった協力隊に参加することを決意。大学までプレーしてきた経験を生かそうと、エクアドルの野球指導員を目指し、倍率約20倍の採用試験を見事突破した。

野球があまり盛んではないエクアドルでの斎藤さんの役割は、子どもたちへの技術指導のほか、指導者養成だ。「まずは野球の面白さを広く伝えたい」と語る。

活動期間は2年。その間、インターネットで自分の活動を日本の若者たちに紹介していくつもりだ。「現地では苦労も多いと思う。それでも夢に向かって行動する姿を示したい」と斎藤さん。「将来、指導したエクアドルの選手が、日本の心を病む若者と交流する日がくるように頑張ってきたい」と話している。